

大鹿村中央構造線博物館たより 108号



2018年5月発行

TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

大鹿村鹿塩の土地利用の変遷が明らかに！

先日、昨年大鹿村で卒論調査をされていた専修大学の藤田^{ほつみ}芙水さんの卒業論文が届きました。無事、論文を提出され、大学をご卒業されたとのこと。藤田さんの卒業論文の調査状況につきましては、博物館たより102号でも少し紹介させていただきましたが、「長野県大鹿村において地すべり地形が土地利用分布とその変遷に与えた影響」というタイトルで、大鹿村鹿塩地区の中峰・梨原・沢井・入沢井・入谷集落を対象に調査されたものです。

調査結果を簡単に記しますと、まず、空中写真を使って土地利用と地すべり地形の分布の関係を調べた結果、調査対象内の集落・農地全体の80%ほどが地すべりで土の塊が移動した部分に位置していたそうです。また、1965年と2014年の空中写真を比較したところ、水田、畑が激減しており、一部は果樹園や植林地に転作されたものの、多くが耕作放棄地になっていたとのこと。より細かく見てみると、より傾斜の急な斜面や、水の得にくい場所など、立地条件の悪い場所が放棄地になっていることが分かったそうです。

論文の末尾には、長年集落に住んでいる住民の方12名を対象にした聞き取り調査の記録が付されています。戦前から現在にかけての、土地利用の変遷を、畑作、水田、植林、地すべり、家畜、獣害の項目別に記載しており、水利用や土壌についてのコメントも記されています。これまで、このようにまとめた聞き取り調査記録はなかったように思いますので、大変貴重な資料であると思います。

調査にご協力いただいた村民の皆さま、どうもありがとうございました。送っていただいた卒業論文は、博物館学習室に保管してありますので、どうぞ閲覧にお越しく下さい。また、今回の調査では見つけられなかった水路や湧水が、まだまだどこかに眠っていそうな気がします。何か情報をお持ちの方がおられましたら、是非教えていただければ幸いです。（宮崎）



写真1 調査風景(梨原地区)



写真2 比較的緩い斜面を畑として利用(梨原地区)